

第8回法人合同研修報告

(保育施設における深刻事故予防とコミュニケーション)

島田福祉会では職員の学習意欲と機会を多く保障し、職員の資質向上に努めてまいりましたが、更に法人全体での職員教育の充実を図るため、2014年度より「法人合同研修」を開始いたしました。2017年11月18日に行われた第8回目は、現在乳幼児施設の危機管理対策の第一人者でいらっしゃる、**掛札逸美先生**をお迎えしてお話を伺いました。

リスクマネジメントの研修という意見が出たときに、真っ先にお名前が上がった掛札先生に、お忙しいスケジュールの中、お時間を取っていただくことができました。エネルギー溢る語り口と、すぐ近くに危険はたくさん潜んでいることを改めて感じました。「ネガティブな感情のこもった言い方だと、相手に伝わらない」「『ほんの少しだから』といて離れた人は、絶対すぐに帰ってこない」など、「あ、そうだけど自分もやっていたなあ」と、自分に引きつけて話を聞くことができたという声も多く、熱心に受講している姿勢が感じられました。日々の保育活動の中で、子どもの育ちのために必要な「価値」と、その活動に伴うリスクを勘案し、適切でないものを見分け、保育の質を向上させていくことの具体例や、そのプロセスの上にある保護者対応の原則などについてもご指導を頂き、『経験の浅い人から話をし、他の人は口を挟まないルール』のグループワークも経験でき、さらには、「『自分にとって悪いことは考えたくない』のは、ストレスを免れる手段でもある」「保育士とは、個性を活かせる貴重な仕事」などと、気持ちの切り替え方や自負心の保ち方も示していただいたので、「明日からの保育のヒントをたくさんいただきました！」という感想が大変多い会となりました。



「今回学んだことを、今後の業務にどう生かしていこうと思いますか？」

(★は島田、☆は駅前、▲は北六丁目、◆は北嶺町、●は北嶺町第二)

▲気づいたことを気軽にお互いに言い合える(非難ではなく)関係作りができればよいと思う。少しずつそのような輪を広げる取組として、批判・非難をしない話し合いの仕方を練習するなど考えていきたい。(園長・主任・副主任)

★実践的なワークを体験することで、より具体的に理解できた。また、困ったときに参考になりそうなサイトやブログが紹介されていたので、是非活用させていただきたいと思う。(園長・主任・副主任)

▲「言い方が内容よりずっと大事」という、コミュニケーションスキルの基礎の話は、最近、園内でも気に掛かっていることなので、とても印象的でした。事故予防に関しては声出しや指さし等を、また、「経験のない人から意見を言い、他は最後まで口を挟まず聞く」ということは、職員会議や園内研修の場で取り入れたいと思います。(園長・主任・副主任)

★「発言は経験の浅い職員から」という言葉がとても心に残っています。ついつい発言してしまうのですが、それだけでは若い職員が育たないと思うので、「黙る練習」をしていきたいと思います。(保育士)

▲日々の保育の中で、常に一つ一つの活動や遊びの価値を明確にしていくように心がけ、リスクを抑えたよい保育ができるようにしていきたいです。(保育士)

★リスクの話からコミュニケーションの話まで聞くことができてよかったです。違いの中から同じ方向を向くことの難しさも感じます。職員・子ども・保護者が違う人間であり、違う価値を認めながら同じ園で過ごしていることを改めて意識させられました。避難訓練時に早速名前を呼んで指示するというのを行いました。連携が取りやすく速やかにできました。(保育士)

▲リスクコントロールという言葉になじみがなかったのですが、改めて学び、理解が深まりました。保育園で必要なリスクマネジメントを考え、危ないからと禁止するばかりではない保育を、職員間で話し合い、実践できたらいいと考えました。(保育士)

▲週案などを作成する際に、それぞれの活動のリスクと価値をしっかりと意識して立てていけるようにしたいと思いました。また、保護者への伝え方等、もう一度見直して誠意のある対応をしていきたいと思いました。(保育士)

▲グループワークは職員会議でやってみるとよと感じた。また、保護者側の気持ちに立って、「自分がこんな言われ方をしたらどう感じるか」を常に考えて接するべきであり、実践していきたい。(保育士)

▲「コミュニケーションは何を話すかではなく、何を飲み込むかである」というお話も、今後意識していきたいと思う。保育におけるリスクも、価値あるものを明確に見分け、質の向上を図り、それを保護者にも伝えていきたい。(保育士)

★これまで「このやり方で大丈夫なのかな」と不安に感じていることの一部を解決できたように思います。その場を離れるときは「〇〇先生」と、相手に伝わっていることを確認してから動くとか、自分の意見を話すことが苦手なので、「私だったら」と頭をつけて話すことで、自分の意見を言うきっかけにしていくなどを実践してみようと思います。(保育士)

▲人は常に注意散漫になる瞬間があることを自覚し、「少しくらいなら」「まだ大丈夫」等の気持ちの時に深刻事故が起きがちな事を認識した上で、声出し、指さし、復唱、間違いの指摘等を行い、事故のない保育をしていきたいと思いました。

▲掛札先生のサイトをすべて読むのは大変かもしれませんが、お便りの例などは参考にしやすいのかなと思いました。少人数グループでの話し合いの仕方は、園内研修などにも活用できそうだなと思いました。(保育士)

▲仕事を頼む時は名前を添えてお願いするようにすること、保護者とうまくやって行くには、何か起きてからではなく、何も無いときのコミュニケーションとリスクの周知を心がけていこうと思いました。(保育士)

▲緊急時の映像を見て、自分の持つスキルを考えて正しい行動が取れるか不安に思った。緊急事態でも「訓練通りにすればいいんだ」と、自分に自信をつけるために訓練を大切にしていきたい。(保育士)

▲1日の大半を子どもと過ごせることの重要性和責任を常に心に置き、幸せに楽しく過ごす。正しい言葉で丁寧に子どもと向き合っていきたい。(保育士)

▲人間には最悪を考えたくないという楽観バイアスがあることを心に留め、いつでも事故は起こりうるということを常に考えながら仕事をしていきたい。事故を防ぐためには、言いづらいことでも言葉にしなければならないことを肝に銘じたい。(保育士)

▲「私だったら～」から始まる意見の出し合いは、とてもよいと思ったので、今後もうまく使っていけるようにしたいです。また、何をやるにも指さし確認しながら行うことを大切にしていきたいです。(保育士)

▲目や耳に認識させることは、給食室におけるアレルギー事故防止にとっても役立つことだと思うので使っていきたいです。(栄養士・調理員)

第9回法人合同研修報告 (乳幼児期に「口」という臓器が果たす役割)

島田福祉会の合同研修も5年目を迎えました。2018年6月16日に行われた第9回目では、幼稚園園長として、また歯学博士としての立場からの子どもの保健、母子保健、精神保健などの指導に関して、幅広い実績をお持ちの岩倉政城先生をお迎えしてお話を伺いました。

「ピッピ園長」の「ピィ〜」という指笛で始まった研修は、文字通り「心も身体も」動かして、全身で講義をされる岩倉ワールドに引き込まれていく職員が多かったようです。臓器への刺激から感覚が育つ・心が育つという発達のお話から、指しゃぶりの背景にある子どもの気持ち、スキンシップの重要性、そして心の育ちに関わる、「子どもの今を受け入れる」「保護者を受け止める」ことの大切さまで、幅広くお話をいただきました(善悪を決めるのではなく、ただ寄り添うだけが必要なこともあり、目を見て話をするだけでなく、「同じ方向を見る」ことで互いを理解するきっかけになることもある…など、子どもや保護者との関係だけでなく、自分と他者との基本的な関係性を考えるきっかけになったという感想もありました)。「ヒト」としての臓器や感覚の発達と、「人」としての心の育ちとは切り離せないものだという、乳幼児の育ちに関わる職種としては必須の視点を確認でき、全職種にとって有意義な研修となりました。



「今回学んだことを、今後の業務にどう生かしていこうと思いますか?」

(★は島田、★は駅前、★は北六丁目、★は北嶺町、★は北嶺町第二)

- ★発達をつまづきを補うことができるのは保育士。無条件で受け入れられていることを分かってもらえるよう、子ども達が自分の中に本当の価値を作り出すことができるよう、サポートしていきたいと思います。(園長・主任・副主任)
- ★親の表象を受容できるほどの心の広さを持ち合わせておりませんが、少しでも我を抑制するよう努めていきたいと思いました。(園長・主任・副主任)
- ★指しゃぶりは子どもの権利であるから無理にやめさせてはいけません。かまってくれないことへの気持ちや、刺激への反応ととらえて落ち着かせ、叱らず、「すてきな子だ」と認めてあげることが大切である。丁寧に関わっていきたく感じました。(保育士)
- ★集団から外れる子や、違うことをしている子に対し、無理に集団に入らせるのではなく、その子と同じ行動を取り、お互いの理解と関係を深めていきたい。(保育士)
- ★子どもは栄養や言葉だけではなく、触れられることで育つということを学んだ。保育の中で、いけないことをしたときにはまず言葉で子どもに伝えるが、伝えた後は理解できたことに触れながら受け止めていこうと思った。(保育士)
- ★子どもを今まで以上に抱きしめてあげようと思いました。指しゃぶりや噛みつきは何かしらのサインであって、否定的にとらえず、背景をしっかりと見ながら保育をしていきたいと思います。(保育士)
- ★日頃、保育士の所へ来ない子をしっかりと把握し、引き込んでいきたい。保護者の方の表象に話しかけられるような声かけをし、子どもに対して優しくなれるようにしていきたい。(保育士)
- ★子ども達を言葉で動かさず、子どもの心に寄り添う保育をしたいと思います。そばで一緒に感じ、伝える保育がしたいと思います。(保育士)
- ★学習円錐と、「友達同士で教え合うことが学習効果がある」というのはすぐに実践できると思ったので、実際に行いました。3歳児でも教え合う姿や気持ちがあることを再認識できました。(保育士)
- ★本当に人が交流するときは目を見ない、同じものを見ているというお話を聞いて、目を見て関わることも大切ですが、同じものを一緒に見ること心掛けていこうと思いました。また、おんぶをすることも大事だと知り、おんぶもたくさんしようと思います。(保育士)
- ★まずは温かい心と体のふれあいを大切に。特に幼児はやる事がたくさんあり、つい見過ごしがちだが、ゆっくりとふれあいの時間を作りながらコミュニケーションをしていきたいと改めて思った。(保育士)
- ★苦手な子と距離を置かず、スキンシップを取りながらゆっくりと信頼関係を築いていく。発達を考える際は、心理、心の発達だけではなく、身体の発達の面からも振り返り、その子に必要な関わりを探していく。(保育士)
- ★保育の中で、できていないことを指摘したり声かけをしたりするのではなく、それ以上にたくさん褒めてあげることや、一人一人の気持ちにより添った関わりができるよう意識していきたい。(保育士)
- ★子ども達ひとりひとりの「自分を絶対受容してくれる人」になれるように、気になる子や「3列目の子」を毎日1回抱きしめる。保護者のことも、園に入園した子、と受け止め、指導するのではなく、受け入れ、寄り添うことによってケアする。直接的体験、子ども同士で教え合う体験を増やす。ファンタジーあふれる保育が展開されるよう、率先して保育を行う。(保育士)
- ★親との関わりが子どもの成長に大きく関係していると再認識しました。時には親子の間に入り、親が子どもを認めることが増える機会を作るきっかけ作りをしていきたいと思いました。(保育士)
- ★何か問題行動があったとき、短絡的に「関わり不足」となるのではなく、細やかに聞き取っていくようにしていく。また、感覚器を大切にしてい保育に生かしていきたいと思いました。(看護師)
- ★味や嗜好の広がりや体験を通して促進されるとおっしゃったので、食育の大切さも感じる事ができ、これからの食育につなげていきたいと思いました。(栄養士・調理員)
- ★ Good と Bad に幅を持たせ、子どもの行動に対してその背景を見られるように意識していきます。食事のマナーや栄養面にこだわり無理強いするのではなく、食べることは楽しいと思える環境作りを心がけます。(栄養士・調理員)
- ★口に入るものに大きく関わる業務なので、料理の味や温度、食感などに関して、「口」はすべてを感じ、その感覚がさまざまな成長の一助になっていると、常に意識しておきたいです。(栄養士・調理員)